

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

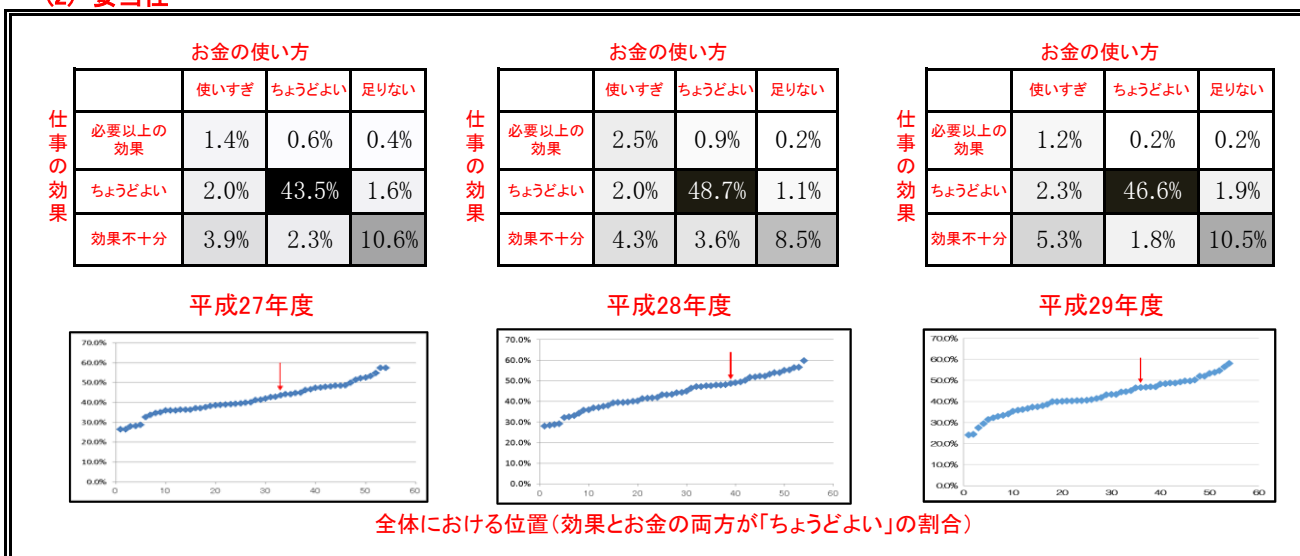
総合計画上の位置付け	分野	青少年育成	施策の方針	青少年の育成・支援
目標とすべきまちの姿	青少年が夢や希望をもってさまざまなことに挑戦し、多くの人の支えや関わりの中で、地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備されています。 青少年会館を拠点として定期的に講座が開催され、そのなかでさまざまな世代の交流が活発に行われています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	28.6%	平成28年度	24.2%	平成29年度	25.3%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	16.5%	45.7%	6.9%	30.9%
平成28年度	14.6%	50.1%	6.7%	28.6%
平成27年度	17.2%	44.5%	5.2%	33.2%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- ①引続き、青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築を図る。(こども-29)
- ②困難に直面している若者に対する地域の理解を広めるための、セミナー等を開催するなど、「支援体制の充実」を図る。(こども-29)
- ③青少年会館が自己肯定感をもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組みを図る。(こども-30)
- ④青少年会館で小学生向け、親子向け、小学生から青少年向けなど様々な講座・教室を開催することや、隣接福祉施設での発表などを通し世代交流を図る。(こども-30)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- ①青少年育成団体等が連携し、青少年を対象とした事業を実施することで、それが手本となり青少年が多くの人の支えや係わりの中で地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備される。
- ②③困難に直面している若者や自立困難な若者を地域社会全体で支えたり、居場所を提供したりすることで当該若者が夢や希望をもってさまざまなことに挑戦できる環境が整えられる。

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
こども-29	育成事業	5,371	4,966	17,437	20,526	1.5	1.7		b	B
こども-30	青少年会館管理運営事業	33,761	34,459	51,919	53,448	2.1	1.5		b	B

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】 ①研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。(こども-29) ①キャンプ、小学生を対象とした各種行事を実施した。(こども-29) ①成人のつどいを実施した。(こども-29) ①子ども・若者育成プランの推進を図った。(こども-29) ①各中学校区を中心に市内をパトロールした。(こども-29) ①鎌倉学習センターに自習室「わかたま」を開設した。(こども-29) ①市内県立高校生による青少年フェスタを開催した。(こども-29) ②様々な年齢層の青少年を対象に、各種の講座を開催した。(こども-30) ②鎌倉青少年会館及び玉縄青少年会館の維持管理を行った。(こども-30) ③青少年会館が自己肯定感の持てる青少年の居場所となるよう、湘南・横浜若者サポートステーションと連携し、玉縄青少年会館に足を運んでもらえるように取り組みをした。
【実施できなかった事業とその理由等】 ①青少年指導員の確保や相談先周知のため「ひきこもりマップ」作成配布などの支援体制の充実(こども-29)

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> ・青少年の健全育成を図るため、地域や青少年団体との情報交換をしながら連携を図った。(こども-29) ・平成28年度に改訂した「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の重点目標である「子ども若者による社会参画の推進」を図った。(こども-29) ・青少年会館の自主講座やイベント支援を必要とする青少年が参加しやすいように見直しや工夫を図った。(こども-30) ・「こども・若者育成プラン」の重点目標の実現に向け効率的、効果的に取り組んでおり、特に成人のつどいや青少年フェスタなど実行委員等による自立性の行事を開催し、適切な成果が得られている。			

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

・平成28年3月に改訂した「鎌倉市子ども・若者育成プラン」の3つの重点目標のうち、「青少年の居場所づくり」、として、鎌倉学習センターに自習スペース「わかたま」を新たに開設した。今後も周知に努め継続して居場所を確保していく。 ・市内県立高校4校による協議により、青少年フェスタを実施。今後も高校生の発表の場として継続した運営に努める。

(7) 平成30年度の目標

①引き続き、青少年の健全育成を図るため、青少年育成団体等の連携及び協力した体制づくりの構築を図る。(こども-29) ②困難に直面している若者に対する地域の理解を広めるための、セミナー等を開催するなど、「支援体制の充実」を図る。(こども-29) ③青少年会館が自己肯定感をもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取り組み状況等の情報共有を図る。(こども-30)

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

①青少年育成団体等が連携し、青少年を対象とした事業を実施することで、それが手本となり青少年が多くの人々の支えや係わりの中で地域を支えられるような大人に成長するための環境が整備される。(こども-29) ②③困難に直面している若者や自立困難な若者を地域社会全体で支えたり、居場所を提供したりすることで当該若者が夢や希望をもってさまざまなことに挑戦できる環境が整えられる。(こども-29、30)

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	こども-27	事業名	育成事業							
指標の内容	青少年指導員の人数					単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由 地域における青少年を対象とした 取組の指標となるため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	75	75	75	75	75	75			
	実績値	65	63	56	58					
	達成率	86.7%	84.0%	74.7%	77.3%					
整理番号	こども-28	事業名								
指標の内容	青少年会館利用者数					単位	人	指標の傾向	⇒	備考
当該指標を設定した理由 青少年の利用者(利用率)数を増 やすため。	年次	H26	H27	H28	H29	H30	H31			
	目標値	52,200	52,300	52,400	52,500	52,600	52,700			
	実績値	52,845	55,041	53,715	51,496					
	達成率	101.2%	105.2%	102.5%	98.1%					

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘	
課題	指摘への対応、コメント等
・青少年と一概に言った場合「問題を抱える」青少年と「抱えていない」ように見える青少年とに分けられ、行政は前者に力が注がれているが、問題の潜在的な部分は後者に多くあるとも考えられる。 ・青少年会館が青少年の居場所の一つとなるよう、更なる青少年の利用者を増やす取組を実施するなどの課題がある。 ・青少年会館での定期的な講座の実態がつかめない。青少年会館の利用実態は小学低学年生がメインであれば、それは本来の目的とは違う結果を生んでいる。 ・青少年会館を拠点として、さまざまな世代の交流が活発に行われることが目標とすべきまちの姿となっており、そのような取組が求められる。 ・引きこもり数を把握をすることは困難と承知しているが、引きこもりの実態把握をして見える化することで、対策が立てやすくなるため、出来る限り実態把握に努めて頂きたい。	子ども・若者育成プランでは、ニート、ひきこもり、不登校等など様々な困難に直面している子ども・若者に対する支援体制の充実に取組んでいる。特に、ひきこもりに関しては、庁内連絡会の設置や講演会を開催し、相談体制の周知を図っていく。また、青少年の居場所づくりにも取組んでいく。 平成24年度から青少年の健全育成を目的とした団体とともに、『鎌倉青少年会館フェスティバル』を実施し、事業の周知や利用者との交流の機会を提供している。 また、玉縄青少年会館については、『玉縄祭』に参加し、地域との交流やふれあい、周知を図っている。引き続き、利用者の増加を図る取組を進める。 ⇒ ひきこもりに関しては、民間団体等と連携し、「ひきこもり支援マップ」を作成するなど相談体制の周知を図っていく。また、講演会等を実施し、ひきこもりに対する理解を深める啓発に努める。

・「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」の活動などを通して、「地域の中でどのような支援ができるか」、「どうしても不登校、ひきこもりになるのか」を市民に理解してもらう必要がある。

・情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか考える必要がある。引きこもりの当事者にインタビューしたとのことだが、今後どう施策につなげていくかが重要である。

・青少年指導員の選出方法を再検討し青少年指導員の役割、活動内容等を検討し青少年指導員の魅力を発信する必要がある。

・意思決定をどこでしているのかわからない。評価委員からの意見をどこにフィードバックして、どう議論したのか。

提言

・指標「青少年会館利用者数」は同一人の重複利用等の実態を明らかにし、幅広い市民に活用されることを希望する。子育て施設との連動・統合等を検討すべきである。

・学校での拘束時間の長さ、塾、お稽古事と自由時間の少ない子ども達、事業を展開するにあたって、学校との連携が必要である。

・ひきこもり、ニート等の実態は覚悟を持って誰かが取り組まない限り絶対にわからない。それをやらないのであれば、せめて未来のひきこもり、ニートの種を減らす取組を積極的に行ってほしい。

・困難に直面している若者等に対する地域の理解を広めるべきである。

・指標としている「青少年指導員欠員地区の担い手の確保」も大切であるが、その指導員がどのような支援(活動)をした結果、青少年に育成にどのような効果があったのかを把握することの方が大切である。

・平成28年度に改訂した「鎌倉子ども・若者育成プラン」に示す3つの重点目標を具現化するよう取り組んでいただきたい。

地域との関わりや、高齢化による担い手不足など課題があるが確保に努めていく。(30年度委嘱人数は65人に向上)

青少年育成施策の取組等については、毎年、「鎌倉市青少年問題協議会」に報告し取り組んでいる。

提言に対するコメント等(総論)

・ひきこもりなど困難に直面している青少年に対しては、地域や学校と連携し支援を行っていく。

・青少年指導員の確保による育成や青少年会館の利用など居場所づくりに力を入れていく。(キャンプの実施や学習センター自習室「わかたま」の開設など)

・各種イベント実施による青少年の社会参画の推進を図っていく。

・青少年フェスタや成人のつどいの実施など、若者の居場所づくりを確保していく。

・庁内に設置したひきこもり連絡会で、相談場所を示した支援マップを作成していく。



鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

- ・「鎌倉市ひきこもりに関する連絡会」を設置し、庁内4課のそれぞれの関わり方、取組状況等の情報共有をしたことは評価できる。
- ・研修会、講演会を開催し青少年指導員としての活動内容の向上に努めた。
- ・鎌倉生涯学習センター自習室「わかたま」の開設。利用者層や人数は分からないが、そこに集う青少年の実態が市の青少年教育の様々な支援等のヒントになりうるのではないかと期待する。「ひきこもり支援マップ」の完成に期待する。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	0	↘	0	→	7	→
効果	○	0	△	2	—	5	—

《課題》

- ・青少年会館が自己肯定感をもてる青少年の居場所となるよう、自立困難な若者に対しての取組状況等の情報共有を図る。
- ・情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか考える必要がある。引きこもりの当事者にインタビューしたとのことだが、今後どう施策につなげていくかが重要。
- ・ひきこもりに関して、民間に委ねる部分が大きいと考えるならば、1日も早い「ひきこもり支援マップ」の完成が必要である。

《提言》

- ・「わかたま」を新たに開設したことは評価できるものの、HPで確認するとスペースは充実している広さであるとは言えなさそうなので、今後の青少年からの需要を検証しながら学習するための場所作りを進めてほしい。
- ・青少年会館の青年の利用人数及び、青年を対象にした講座、教室数の数を指標化してほしい。
- ・0歳から小学生までは他の分野での取組があるが、16歳以上の未成年を対象にした施策はここだけである。青少年という幅広い年齢層を対象とするのではなく、16歳以上に絞った取組を行うのはどうか。

《質問》

- ・「地域の中でどのような支援ができるか」、「どうして不登校、ひきこもりになるのか」を広く市民に理解してもらう必要がある。情報共有を受けて、今後どのような対策が検討されたのか？
- ・NPO法人「鎌倉てらこや」、「鎌倉市青少年協会」、「鎌倉市青少年指導員連絡協議会」3団体の鎌倉青少年会館フェスティバル参加とあるが、具体的な活動および効果はどのようなものか。
- ・鎌倉学習センターの自習室「わかたま」の利用状況について知りたい。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「青少年会館を拠点として定期的に講座が開催され、そのなかでさまざまな世代の交流が活発に行われています。」について、「講座の開催」と「世代の交流」にはどのような「関係性」があり、実際に活発に交流されているのか？
- ・「指標」の「青少年指導員の人数」について、設定理由を「地域における青少年を対象とした取組の指標となるため。」としているが、人数と取組の関係性が不明である。また、目標値はどの様に設定しているのか？
- ・「指標」の「青少年会館利用者数」について、設定理由を「青少年の利用者（利用率）数を増やすため。」としているが、利用者を把握するとなぜ利用者は増えるのか？利用者が増えたとどの様な理由で「目標とすべきまちの姿」が推進されていると判断出来るのか？また、実績が減少しているのに傾向はなぜ横ばいなのか？